

Novel, Challenge and Change
All Activities for Cancer Patients

最善のがん薬物療法の実践を目指して



国立がん研究センター

薬剤師レジデント がん専門修練薬剤師募集 (平成31年度)



国立研究開発法人

国立がん研究センター
National Cancer Center Japan

<http://www.ncc.go.jp/>

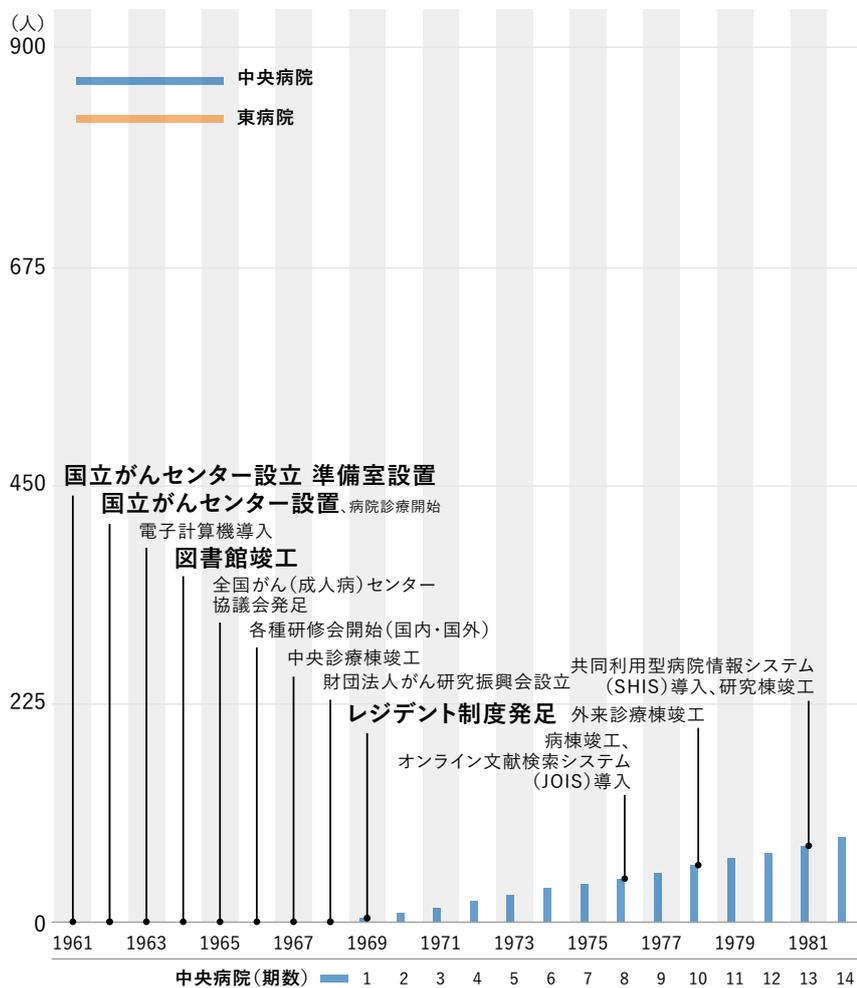
- 2 沿革／設立の目的とその使命
- 4 薬剤師レジデント制度について
- 5 薬剤師レジデント研修過程の内容
- 7 研修に関する Q&A
- 8 チーム医療に貢献する薬剤師
- 10 研修スケジュール
- 11 薬剤師レジデントの生活
- 12 薬剤業務
- 14 がん専門修練薬剤師の創設
- 16 募集要項 (薬剤師レジデント)
- 18 募集要項 (がん専門修練薬剤師)
- 20 薬剤師レジデントより
- 24 がん専門修練薬剤師より
- 27 交通情報

設立の目的とその使命

戦後、日本人の疾病構造が変化し、「がん」による死亡が増加し、その傾向はさらに強まることが予測されたため、国として、国民の医療・保健対策上の見地から、がん対策の中核として総合的な「がんセンター」の必要性が強く認識されました。そこで、1960年、当時の日本医学会会長、田宮猛雄氏ら9名の学識経験者からなる国立がんセンター設立準備委員会が発足し、「国立がんセンター」のあり方、将来構想など重要事項について検討し、厚生大臣宛に意見具申書を提出しました。それによって、1962年2月1日、「国立がんセンター」が正式に発足しました。その目的は、東京に理想的ながんセンターを設立して全国的ながん施策の中核にすることでした。

その後、1992年に千葉県柏市に国立がんセンター東病院が設立され、1994年には、東病院に隣接して研究所支所、2004年には、がん予防・検診研究センターが築地キャンパスに設立され、翌2005年には柏キャンパスの東病院の中に研究所支所の組織を改め臨床開発センターが活動を開始しました。さらに2006年10月には築地キャンパスにがん対策情報センターが設立され、より一層施設の拡張と充実がなされ、病院、研究所が一体となって予防、診療、研究、研修、情報収集・発信の分野において、我が国のがん施策の中心的な役割を果たして来ました。国立がん研究センターは、我が国のみならず、世界的ながん対策の中核的な施設として、人類の悲願である「がん克服」に向けて、全力で取り組んでおります。

レジデント制度 50年のあゆみ





設立時の建物



外来診療棟竣工（昭和53年）



研究棟竣工（昭和56年）



東病院と臨床開発センター



中央病院新棟竣工（平成30年）



診療棟（がん予防・検診研究センター）



癌の文字から「疒（やまいだれ）を取り除き「品」とし、それを図案化したものです。昭和45（1970年）

シンボルマークの内側の3つの輪は、「1. 世界最高の医療と研究を行う」「2. 患者目線で政策立案を行う」という理念に基づき、「(1) 臨床」「(2) 研究」「(3) 教育」を表しています。外側の大きな輪は「患者・国民の協力」を意味します。

人材育成センター設置、研究支援センター設置、がん研究10ヵ年戦略、がん専門修練薬剤師制度発足

早期・探索臨床研究センター(NCC-EPOC)開所、診療棟竣工、がん登録推進法成立
がん対策推進基本計画(見直し)

臨床研究中核病院の承認

レジデント制度発足50年

がん対策基本法成立、薬剤師レジデント制度発足、がん対策情報センター開所
MRX手術室開設(中央病院)、臨床開発センター開所(東病院)

がん対策推進基本計画

第3次対がん10ヵ年総合戦略発足

(財)日本医療機能評価機構の病院機能評価認定(中央病院・東病院)

中央病院新棟竣工

陽子線治療棟竣工(東病院)

疾病ゲノム棟竣工

がん診療総合支援システム稼働

特定機能病院の承認(中央病院)、がん克服新10ヵ年戦略発足

外国医師・歯科医師臨床修練指導病院の施設承認(東病院)

国立がんセンター東病院開院

がん専門修練医制度発足

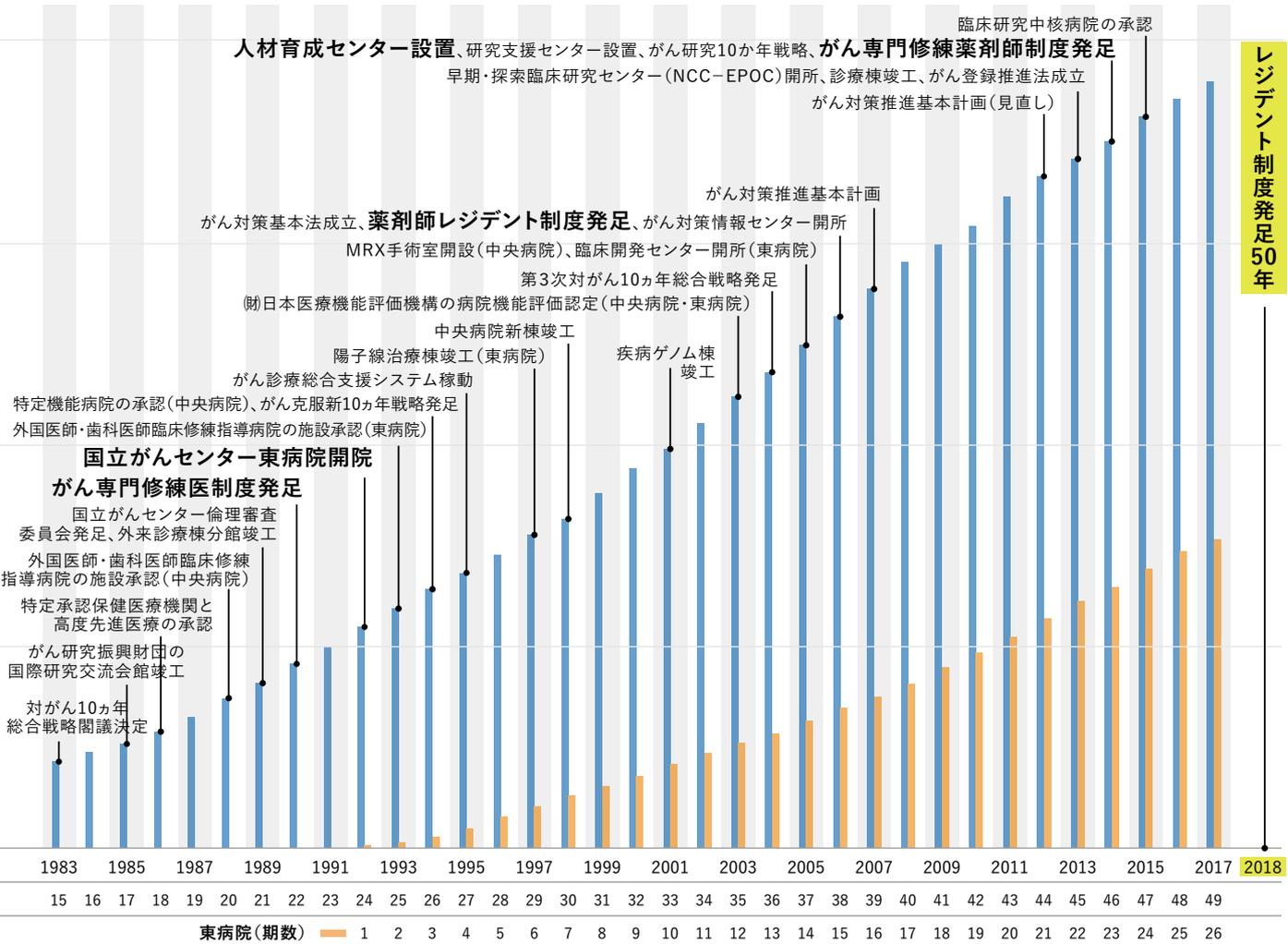
国立がんセンター倫理審査委員会発足、外来診療棟分館竣工

外国医師・歯科医師臨床修練指導病院の施設承認(中央病院)

特定承認保健医療機関と高度先進医療の承認

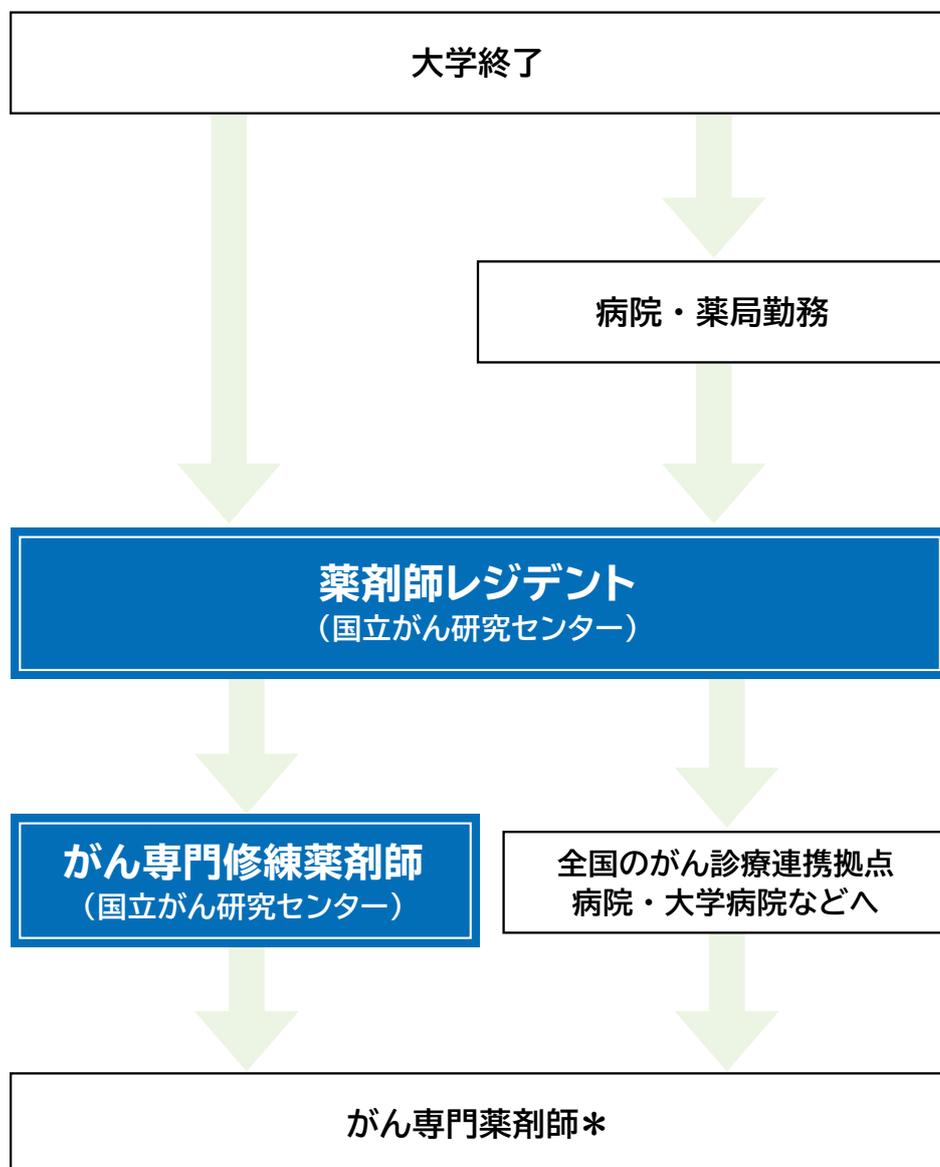
がん研究振興財団の国際研究交流会館竣工

対がん10ヵ年総合戦略閣議決定



薬剤師レジデント制度について

「がん(悪性新生物)」は、1981年以降、わが国の死因の第一位であり、現在、がん医療の進歩・向上に対する社会からの期待は非常に高いものとなっています。国立がんセンターは1962年に創設されてから、これに応えるためがん専門の医療従事者の育成を行ってきました。我々薬剤師も専門的なチーム医療の担い手として、がん薬物療法における抗がん剤の治療効果に関する知識や安全な調製技術を有する専門性の高い薬剤師を育成する必要性が高まりました。2006年に薬剤師6年制教育が開始されるのと同時に、当センターでは薬剤師レジデント制度をスタートさせ、今年で13年目を迎えます。薬剤師レジデント制度では、3年の研修期間において、指導薬剤師のもと薬剤業務や病棟業務に従事しながら、知識や技能を修得するとともに、患者との意思疎通およびチーム内の他職種と連携を図るためのコミュニケーションスキルも身につけることを目的としています。これらを通じて、抗がん剤調製やがん薬物療法、緩和医療など高度な技能と知識を持つがん医療に精通した専門薬剤師を養成します。国立がん研究センター中央病院及び東病院は、日本医療薬学会のがん専門薬剤師研修施設及び日本病院薬剤師会のがん薬物療法認定薬剤師研修施設に認定されており、当院でのレジデントとしての3年間の勤務期間は、その研修期間に相当します。これまでに、10期生までがこの制度を修了し、それぞれ医療の第一線で活躍しているところですが、将来のがん医療を発展させ、国民・患者の期待に応えるためには、さらに多くの有為な人材が不可欠であり、志ある薬剤師がこの道を目指して頂くことを期待しています。



*認定要件の例：がん専門施設で5年の研修, 50症例の経験

薬剤師レジデント研修課程の内容

【薬剤師レジデントの研修目標】

Vision: 臨床・研究・教育、各分野でリーダーシップが発揮出来るトップレベルの薬剤師による医療サービスの提供を通じて世界最高峰のがんセンターを目指す

【薬剤師レジデント研修課程における到達目標】

(例: 消化管内科)

1. 胃癌、食道癌、大腸癌の疫学が理解できる
2. 胃癌、食道癌、大腸癌の発生部位と関連した臨床症状が理解できる
3. 胃癌、食道癌、大腸癌の診断・治療導入時から終末までの一連の流れ (Natural Course) が理解できる
4. 胃癌、食道癌、大腸癌の病期別の治療方針が理解できる
5. 胃癌、食道癌、大腸癌の臨床症状に対応するための処置について理解出来る
6. 胃癌、食道癌、大腸癌のレジメン内容を理解し適正な投与量を確認出来る
7. 上記1～6をふまえ、患者に平易な言葉でわかりやすく説明できる
8. 化学療法以外の支持療法も含む薬剤の適切な使用法を確認できる
9. 患者の問題点を抽出し最優先事項を判断し、優先順位に沿った対応ができる
10. 患者の状況について本人ならびに他職種から情報収集でき、薬学的観点からのアセスメントができる
11. 入院治療から外来治療への移行をサポートすることができる
12. EBMの手法にのっとった批判的吟味ができ、消化管内科カンファレンスで簡潔なプレゼンテーションができる

【研修内容】

●業務を通じた研修

病棟業務、外来業務、注射薬混合調製、麻薬管理、薬剤管理指導業務、外来化学療法業務、緩和ケア、医薬品情報管理業務、TDM等

●講義による研修

がんの基礎知識、化学療法、支持療法、緩和医療、がん領域の臨床薬理など。その他、薬剤部勉強会、院内で行われる Medical Oncology Conference、緩和医療・栄養管理・医療安全・感染対策の勉強会に参加します。

【研修期間】

3年間

【年間スケジュール】

1年目

抗がん剤調製や麻薬の薬剤管理等の薬剤業務の基本を修得するとともに、薬剤部勉強会、院内のカンファレンスや勉強会等に参加し、がん薬物療法の基礎を学びます。

2・3年目

病棟業務や外来業務を通じてがん医療の臨床経験を積むことにより、がん専門薬剤師として必要な知識、技能を修得します。

この他、各レジデントは研究テーマを見つけ、毎年中央病院・東病院薬剤師レジデント合同報告会での発表を行い、また関係学会での発表や論文を投稿することが奨励されています。

【充実した講義研修】

がん専門薬剤師研修のための講義を聴講することが可能です。表は平成29年度に行われた研修の日程表です。

	講義日	講義内容	講師
1	1/10	大腸癌（外科治療）	大腸外科医
2	1/11	放射線治療（IVR）	放射線科医
3	1/15	肝・胆・膵癌（化学療法）	肝胆膵内科医
4	1/16	造血器腫瘍（悪性リンパ腫）	血液腫瘍科医
5	1/19	生物統計の基礎	生物統計家
6	1/24	がん薬物療法の実践②処方提案の実症例（皮膚、HFS）	がん専門薬剤師
7	1/26	婦人科癌（化学療法）	腫瘍内科医
8	1/29	精神腫瘍	精神腫瘍科医
9	1/30	食道癌（外科治療）	食道外科医
10	1/31	Pharmacogenomics 研究最前線	研究所 研究員
11	2/7	肺癌（外科治療）	呼吸器外科医
12	2/8	乳癌（化学療法）	腫瘍内科医
13	2/13	頭頸部癌	頭頸部外科医
14	2/15	脳腫瘍	脳脊髄腫瘍科医
15	2/16	胃癌（外科治療）	胃外科医
16	2/19	胚細胞腫瘍	腫瘍内科医
17	2/21	骨腫瘍	骨軟部腫瘍科医
18	2/26	抗がん剤の臨床薬理（PK/PD）	がん専門薬剤師
19	2/28	がんと総合医療	循環器内科医
20	3/1	泌尿器癌（化学療法）	腫瘍内科医
21	3/5	原発不明癌	腫瘍内科医
22	3/6	B型肝炎、AIDS、梅毒など感染症再燃予防のエビデンス	感染認定薬剤師
23	3/8	がん薬物療法の実践①処方提案の実症例（消化管）	がん専門薬剤師
24	3/12	がん疼痛治療	がん専門薬剤師
25	3/14	皮膚腫瘍	皮膚腫瘍科医
26	3/15	がん薬物療法の実践③処方提案の実症例（血液）	がん専門薬剤師



研修に関する Q&A

Q 研修の特徴は何ですか？

A 全国に先駆けて導入した薬剤師レジデント制度は今年13期生を迎えました。多くの指導者が専門資格を取得し、10年以上にわたるレジデント指導実績の下、調剤技術から薬剤管理指導業務まで、がんに関する専門知識の習得を目指します。薬剤師だけでなく医師、看護師など他職種との連携を通じて多くのことを学ぶことができます。

Q 研修カリキュラムはどの様になっていますか？

A 3年間のカリキュラムとなっています。2年目までは、調剤業務などを行いつつ薬剤管理指導業務を実施します。この期間の薬剤管理指導業務は、3～4ヶ月程度でローテーションしながら複数の診療科で研修を行います。3年目は希望の診療科で終日薬剤管理指導業務を行い、臨床能力にさらに磨きをかけます。

Q がん医療に関わった経験が少なく、がん専門病院での研修に不安があります。

A 当院のロゴマークにもあるように、国立がん研究センターの目標は世界最高水準のがん診療、最新の治療研究・開発、そして優れたがん医療教育の提供にあります。実際、当院で研修を開始される時点ではほとんどがん治療に関する知識、技術がない方も、研修終了時にはがん医療に従事する薬剤師として立ち立てるまでに成長します。

Q レジデントの給料はどのくらいですか？

A 非常勤職員手当の規定に基づきます。平成30年度見込み支給額は約300万円です。部屋の空き状況によりますが、病院に直結した単身宿舎（有料）を借りることができるため、家賃負担が軽減されています。

Q 教育環境について教えてください。

A 抗がん剤治療の件数は1日150件を超え、全国トップクラスの取扱件数を誇ります。そのため調剤経験はもとより薬剤管理指導においても多くの癌種・症例に触れることが可能です。また、年間100を超える講義・セミナーが開催されているほか、薬剤部独自の勉強会も毎月行っており、レジデントだけでなく薬剤部員の教育研修にも力を入れています。

Q レジデント終了後の進路は？

A レジデント修了後、さらに専門性を高めたい方には2年間のがん専門修練薬剤師コースに進むことができます。レジデントの就職先としては、がん専門施設を初め各大学、地域のがん診療連携拠点病院に異動し、それぞれの立場でがん医療に携わっている方が多くいらっしゃいます。

Q 研究や学会活動について教えてください。

A 研修中、学会発表、論文作成、臨床研究などなんらかの学術活動を行うことが奨励されています。日常業務から生じた疑問をまとめ研究として発表する場として、中央病院と東病院で年1回合同報告会を実施しています。研究の内容によっては国内外の学会に発表することができます。

Q がん以外の疾患を学ぶことができますか？

A がん以外の疾患の勉強は外部の勉強会で学ぶことができます。また、他の国立病院機構病院との人事交流を行っていますのでレジデント終了後に他の総合病院でがん以外の疾患を学ぶことも可能です。

チーム医療に貢献する薬剤師



血液／造血幹
細胞移植科



緩和ケア



呼吸器内科



肝胆膵内科

薬剤師レジデント・

小児腫瘍科





消化管内科



脳脊髄腫瘍科



乳腺・腫瘍
内科



骨軟部腫瘍科



泌尿器後腹
膜腫瘍科

がん専門修練薬剤師

薬剤師レジデントの生活

【中央病院・東病院1年目のレジデントの1週間(例)】

中央病院				
	8:30	11:30	12:30	17:15
月	処方調剤 注射調剤・注射混合調製 麻薬調剤 レジメン管理	昼休み	医薬品情報	※薬剤師研修・講義研修 (9月～3月)
火				※症例検討会
水				※
木				
金				※
土	※		勉強会参加	
日	※			

東病院				
	8:30	11:30	12:30	17:15
月	処方調剤／注射調剤 注射剤混合調製／ 通院治療センター での服薬指導	昼休み	処方調剤／注射調剤 注射剤混合調製／ 通院治療センター での服薬指導 薬剤管理指導業務	※薬剤師研修・講義研修 (9月～3月)
火				※
水				内科医合同カンファレンス
木				※
金				※勉強会参加
土	※		※勉強会参加	※
日	※		※	※

がんセンター内部での業務など

がんセンター外部

※ 日当直または補助業務

【レジデントを支える施設】



中央病院



東病院

図書館

図書館では、国内外のがん対策の推進を支援するため、がんに関する資料を広く収集して利用者に提供するほか、オンラインによる文献検索サービスも実施しています。

薬剤業務

■ 調剤業務



●入院調剤

●外来調剤

内服・外用薬・麻薬の調剤と窓口で使用方法や副作用について患者さんにわかりやすく説明します。



●麻薬の使用法について説明 ●院外処方箋疑義照会応需

■ 注射業務



●注射薬調剤

●レジメンの確認

注射薬の調剤と抗がん剤の混合調製を行います。抗がん剤治療についてはレジメンの内容を確認しています。



●抗がん剤混合調製



■ 薬剤管理指導業務

- 乳腺・腫瘍内科
- 消化管内科
- 呼吸器内科
- 緩和医療科
- 血液化学療法科
- 血液腫瘍科・造血幹細胞移植科
- 肝胆膵内科
- 通院治療センター
- 小児腫瘍科
- 骨軟部腫瘍科
- 泌尿器・後腹膜腫瘍科

■ 医薬品情報管理業務



- 医薬品情報の収集・整理
- 治療薬物モニタリング
- 情報の加工・提供

医薬品に関する情報を収集し、医療者が使いやすい形に加工し提供します。
抗がん剤治療のレジメン登録の事務局業務を担います。



- レジメン管理・登録

■ チーム医療への参画



- 感染対策チーム：ICT
- 褥瘡対策チーム
- 栄養管理対策チーム：NST
- 外来がん薬物療法患者サポート
- 緩和ケアチーム：PCT

■ 外来薬剤師業務



- 薬剤師外来
- 外来化学療法ホットライン
- 通院治療センター

■ 医療連携



- 薬業連携
- 地域がん医療研修会

■ 治験管理業務

- 治験管理室との連携
- 治験薬管理と調剤・調製

■ 医薬品管理業務

- 医薬品在庫管理
- 麻薬管理
- 手術室医薬品管理

■ 製剤業務

- 一般製剤調製
- 院内特殊製剤調製
- 製剤品質試験

がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）制度の創設

■中央病院におけるがん専門修練薬剤師制度について

がん領域における人材養成は当院の重要な使命であり、臨床能力の高い薬剤師の育成が社会的にも強く求められていることから、国立がん研究センター薬剤部では、この領域における高い専門性と臨床能力を持った薬剤師の教育に力を入れてきました。そのために当院では、薬剤師教育6年制が導入された2006年に薬剤師レジデント制度を創設し、指導薬剤師のもとで病院薬剤業務の基本とがん薬物療法に関する基礎から臨床までの幅広い知識・技能を習得し、患者や他職種とのコミュニケーションスキルを身に付けた、がん医療に精通した薬剤師の養成を図っています。

しかし、近年のがん薬物療法の急速な進歩に伴い、病院薬剤師の業務が質・量ともに大きく変化してきたことから、今般、現行の薬剤師レジデント制度を発展させ、病院薬剤師の臨床能力を更に高め、チーム医療や臨床研究への関わりを一層深めることを目指した「がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）制度」を2014年4月に開始することとしました。

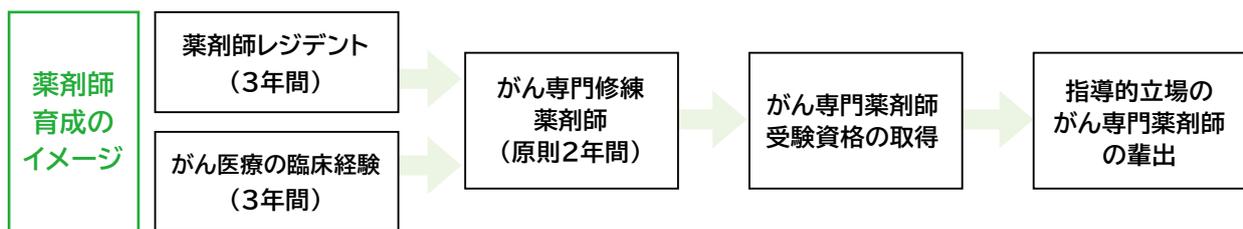
今後、薬剤師レジデント制度とがん専門修練薬剤師制度とを一体的に運用することで、日本医療薬学会がん専門薬剤師の認定要件である認定研修施設におけるがん薬物療法の5年間の研修実績を積み重ねることが可能になるのみならず、がん領域における指導的立場の薬剤師を育成し、全国のがん診療連携拠点病院に配置していくという当院のミッションに照らしても、両制度はわが国のがん医療にとって重要な一歩であると考えています。この新たな制度が志ある薬剤師にとってよき研鑽の場となり、がん医療について高度な知識と幅広い臨床経験を兼ね備えた専門薬剤師の輩出につながることを大いに期待しています。

■東病院におけるがん専門修練薬剤師制度の特徴

薬剤師レジデント制度は、病院薬剤業務の基本的技術を修得するとともに、がん薬物療法に関する臨床および基礎の幅広い知識と技術の修得を図り、がん医療に精通した薬剤師の養成を目的としています。調剤や注射薬などの払出業務、混注業務に加え、薬剤管理指導業務をレジデント1年目より開始して、薬剤師としての一般的な知識と技能、そしてがん医療における薬剤師の役割と各診療科における標準的治療などを並行して習得するカリキュラムが東病院の特徴です。3年目では診療科への連携を強化し、処方支援、処方薬の説明・指導や副作用のモニタリングなどを支援しながら診療のパートナーとしてチーム医療への関わりを深めています。

「がん専門修練薬剤師」はチーム医療への関わりを把握したうえで、臨床研究への関わりを深めることを目的としています。薬剤師は臨床研究のパートナーでもあります。Clinical Questionを臨床研究に発展させて、多くのエビデンスが創出されることを期待しています。

がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）制度（平成26年度より開始）



■各コース紹介

●薬物動態学／薬力学（PK／PD）臨床研究コース

がん医療において、抗がん薬による薬物療法は集学的治療の3本柱の一つです。最近では分子標的薬の開発により、対象となるポピュレーションの拡大等の面で大きな変化を遂げている反面、個別投与設計ではまだまだエビデンスが不足しています。特に、高齢者など臓器機能が低下している場合や臓器機能障害がある患者においては、薬物療法の中心である殺細胞性薬の選択肢が狭められる一方で、イマチニブに代表される分子標的薬は、PKが直接治療効果に結びつくなど、近年いくつかの興味ある報告がなされ、TDM（薬物治療モニタリング）が行われています。中央病院薬剤部ではこれまで、いろいろな抗がん薬について臨床医と協力して前向きPK／PD研究に取り組み、エビデンスを構築してきました。本コースでは、さらに国立がん研究センター研究所との連携を図り、これまで培ってきたPK／PD研究のノウハウにPharmacogenomicsの概念を加えたりパー

ス・トランスレーショナル・リサーチ (rTR) に進んでいく予定です。薬物代謝酵素やトランスポーターの機能解析なども視野に入れ、後期治療開発に資する rTR を是非一緒に行いましょう。

年間スケジュール	4	5	6	7	8	9	10	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	1	2	3
固定診療科にてチーム医療の実践																						
薬剤部ゼミで研究コンセプト披露																						
臨床研究プロトコル作成																						
倫理審査委員会にてプレゼンテーション																						
臨床研究																						
米国臨床腫瘍学会などにチャレンジ※																						

●造血幹細胞移植科専門コース（中央病院）

造血幹細胞移植療法は自家・同種合わせて年間 5,000 人以上の患者さんがその恩恵を受けています。移植前処置の抗がん剤は「超大量」であり、副作用の頻度、重症度も通常とは大きく異なります。また、移植後 GVHD（移植片対宿主病）の症状コントロールも簡単ではなく、長期間に渡って「くすり」との付き合いが余儀なくされます。

私たち薬剤師の務めは、科学的根拠に基づいた「標準的な」治療の実践は当然であり、さらなる $+\alpha$ （プラスアルファ）、つまり患者さんの様々な背景を踏まえ、薬理学や薬物動態学といった「薬学」を土台にした薬物治療の提案を行っていくことです。それができてこそ真のスペシャリストとして認められます。私たちの $+\alpha$ が吹き込む風は移植成績の向上に必ず繋がります。しかし本邦ではまとまった症例を経験することが難しく、臨床経験豊富な「指導者」はそれほど多くいません。

欧米では BMT Pharmacist は難関であり、人気も高いといわれています。ぜひ日本の薬剤師も負けていないことを一緒に示していきましょう。



●支持療法コース（東病院）

国立がん研究センター東病院は 24 床の PCU 病棟と国内では数少ない精神腫瘍科を有するがん専門病院です。当コースは患者の全人的苦痛の緩和



を目指した薬学的アプローチの実践とその研究を目的としており、緩和ケアチームや PCU 病棟での薬剤師活動とそれを土台にした臨床研究を行ってもらう予定です。研究を支援するツールとしては高度な分析機能を有する LC-MSMS を所有しており、オピオイド等の薬物血中濃度測定や電子カルテ情報を用いた臨床研究が可能です。また、精神腫瘍科の協力により、抑うつやせん妄など精神的苦痛に関する臨床研究も可能です。当院は地域医療への介入研究を行っていた実績があり、在宅医療の分野でも薬剤師の新たな業務を模索することが出来ます。しかし、薬剤師の新規業務を確立させるためにはそのエビデンスの創出が必要です。当院の様々な医療資源を用いることで出来る研究は多数あります。がん医療に寄与できる新しい薬剤師業務の構築にあなたも携わってみませんか。

●固形腫瘍診療科固定コース

国立がん研究センターでは、5 大がん種（乳がん、肺がん、大腸がん、肝がん、胃がん）以外にも、頭頸部がんや膵がん、骨軟部腫瘍（肉腫）、血液がん（悪性リンパ腫など）、小児がんとさまざまながん種について専門性の高い診療を行っています。既存のレジデント制度では、まず、基本的に 5 大がん種についての薬学的管理介入を中心にカリキュラムが組まれますが、本コースは、こうした希少疾患に対しても薬学的管理介入を実践できる貴重なコースとなっています。また、5 大がんのなかで、がん専門修練薬剤師を卒業したのちに中心的にマネジメントしなければならない領域が決まっている方には、そのがん種において重点的に薬学的管理介入を実践していただけるコースでもあります。研修期間中にはリサーチマインドも養っていただくなど、がん領域において指導的立場の薬剤師となつていただくためのノウハウを学ぶことができます。本コースは、中央・東の交流も可能です。皆さんニーズに合わせたプラン設計が可能ですので、相談していきましょう。



募集要項 (中央病院・東病院)・薬剤師レジデント

1. 応募資格

平成 21 年 3 月以降大学を卒業した薬剤師免許取得者、または、平成 31 年 3 月卒業見込みで薬剤師免許取得見込みの者。

2. 募集人数 (予定)

中央病院 6 名
東病院 6 名

3. 出願手続

- I. 願書受付 中央病院・東病院ともに下記あてに郵送して下さい。
封筒の左隅に「薬剤師レジデント願書」と朱書きして下さい。
【送付先】
〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
国立研究開発法人 国立がん研究センター 人材育成センター教育連携室教育連携係
- II. 締切日 平成 30 年 6 月 29 日 (金) 必着
- III. 必要書類
- a. 願書 (所定様式)
 - b. 健康診断書 (所定様式)
抗体検査確認表 (所定様式)
 - c. 薬剤師免許の写し (A4 判に縮小)
 - d. 大学の卒業証明書または大学院修了書の写し (A4 判に縮小) (薬学部生は、成績証明書)
 - e. 在職証明書 (大学院の在籍証明書も可)

4. 選抜方法

書類審査、筆記試験および面接試験

なお、応募者が多数の場合は書類にて一次選考を行います。

5. 選考日時

(中央病院) 平成 30 年 7 月 12 日 (木) 午前 9 時から
(東病院) 平成 30 年 7 月 11 日 (水) 午前 9 時から

6. 選考会場

- (中央病院) 国立がん研究センター 中央病院管理棟会議室
東京都中央区築地5-1-1
- (東病院) 国立がん研究センター 東病院会議室
千葉県柏市柏の葉6-5-1

7. 合格発表

平成30年8月中旬 ※採否は郵送にて通知します。

8. 身分

非常勤職員（薬剤師）

9. 勤務

薬剤師レジデント研修課程（中央病院、東病院）に基づき、指導薬剤師のもと、薬剤業務および病棟業務に従事します。
（日当直または補助業務を含む）

10. 処遇等

- I. 手当 非常勤職員手当の規定に基づき支給されます。
(平成30年度見込総支給額 約300万円)
- II. 保険 社会保険（厚生年金・雇用保険）に加入します。
- III. 宿舎 (中央病院) 単身者用の宿舎（有料）を、空き状況により利用できます。
(東病院) 単身者用の宿舎（有料）を利用できます。
- IV. 修了 所定の研修修了時に修了証書を交付します。

11. 説明・見学会

- (中央病院) 平成30年5月10日（木）14時～16時
- (東病院) 平成30年5月11日（金）14時～16時

※説明・見学会へ参加される方は、参加希望会場、氏名、現住所、所属（施設名または大学名）、連絡先を事前にお知らせください。

説明・見学会参加の連絡先

国立がん研究センター中央病院人材育成センター教育連携室教育連携係
E-mail : kyoiku-resi@ml.res.ncc.go.jp

募集要項 (中央病院・東病院)・がん専門修練薬剤師 (チーフレジデント)

1. 応募資格

- (1) 国立研究開発法人国立がん研究センター薬剤師レジデント研修を修了した者、または平成 31 年 3 月に同研修を修了見込みの者
- (2) (1) に相当する学識を有する者で、平成 31 年 4 月 1 日時点で原則として 3 年以上のがん領域における臨床経験を有する者

2. 募集人数 (予定)

中央病院	2 名
東病院	2 名

3. 出願手続

- I. 願書受付
- 中央病院・東病院ともに下記あてに郵送して下さい。
封筒の左隅に「がん専門修練薬剤師願書」と朱書きして下さい。
【送付先】
〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
国立研究開発法人 国立がん研究センター 人材育成センター教育連携室教育連携係
- II. 締切日
- 平成 30 年 10 月 19 日 (金) 必着
- III. 必要書類
- a. 願書 (所定様式)
 - b. 健康診断書 (所定様式)
 - c. 上司または指導者の推薦書 (所定様式)
 - d. 薬剤師免許の写し (A4 判に縮小)

4. 選抜方法

書類審査、筆記試験および面接試験
なお、応募者が多数の場合は書類にて一次選考を行います。

5. 選考日時

(中央病院)	平成 30 年 11 月 2 日 (金) 午前 9 時から
(東病院)	平成 30 年 11 月 1 日 (木) 午前 9 時から

6. 選考会場

- (中央病院) 国立がん研究センター 中央病院管理棟会議室
東京都中央区築地5-1-1
- (東病院) 国立がん研究センター 東病院会議室
千葉県柏市柏の葉6-5-1

7. 合格発表

平成30年12月初旬 ※採否は郵送にて通知します。

8. 身分

非常勤職員（薬剤師）

9. 勤務

がん専門修練薬剤師研修課程（中央病院、東病院）に基づき、指導薬剤師のもと、より専門性の高い病棟・外来業務や研究に従事します。（日当直または補助業務を含む）

10. 処遇等

- I. 手当 非常勤職員手当の規定に基づき支給されます。
(平成30年度見込総支給額 約400万円)
- II. 保険 社会保険（厚生年金・雇用保険）に加入します。
- III. 宿舎 (中央病院) 単身者用の宿舎（有料）を、空き状況により利用できます。
(東病院) 単身者用の宿舎（有料）を利用できます。
- IV. 修了 所定の研修修了時に修了証書を交付します。

11. 説明・見学会

- (中央病院) 平成30年5月10日（木）14時～16時
- (東病院) 平成30年5月11日（金）14時～16時

※説明・見学会へ参加される方は、参加希望会場、氏名、現住所、所属（施設名または大学名）、連絡先を事前にお知らせください。

※8月24日（金）にオープンキャンパスを予定しています。

説明・見学会参加の連絡先

国立がん研究センター中央病院人材育成センター教育連携室教育連携係
E-mail : kyoiku-resi@ml.res.ncc.go.jp

メッセージ レジデント12期生より



国立がん研究センター中央病院

山本 彩佳 (大阪府出身)

私は幼い頃に、家族が抗がん剤治療の副作用に苦しむ姿を目の当たりにしました。この経験から患者さん個々の状態を考慮し、適切な投与設計、症状の軽減ができる副作用対策を行うことで最適な抗がん剤治療を提供できる薬剤師を目指したいと考えました。そして、がん治療に精通した方々が「目の前の患者さんに全力を尽くす」ために高い専門性を持って、最先端のがん治療を提供されている当院に魅力を感じました。当院のレジデントプログラムは三年間で中央業務から病棟業務、研究など幅広く経験・学習することができます。また、講義研修や勉強会があり、業務を行いつつ幅広い知識が身につきます。がん治療に携わりたいと考えている方はぜひ最高の環境が整っている当院のレジデントを志望されてみてはいかがでしょうか。



国立がん研究センター中央病院

新藤 実香 (東京都出身)

私は、大学5年次での病院実習をきっかけに、当院のレジデント制度を志望しました。がん治療は、薬物療法の関わりが非常に大きく、質の高い医療を提供するためには、専門知識をもった薬剤師の存在が不可欠であると感じたからです。当院のレジデント制度は、1年目で調剤や注射混合調剤などの中央業務を行い、2年目以降の病棟薬剤管理指導業務に向け、がん領域だけでなく薬剤師として基本的な知識を学ぶことが出来ます。また、1年目薬剤師を対象とした勉強会や、定期的に行われる薬剤部ゼミでは、先生方がわかりやすく丁寧に指導して下さいます。さらに、自身の研究を発表する場として、年に1回東大病院との合同報告会があり、高度な専門知識を身に付けるには十分な環境とカリキュラムです。私は将来、がん医療に精通した薬剤師となり、均てん化に貢献したいと考えております。薬剤師として日本のがん医療に貢献したいと考えている皆さん、当院と一緒に学んでみませんか。



国立がん研究センター中央病院

陳 美樹 (東京都出身)

医療の多様化に伴い、薬剤師は広い薬の知識だけでなく専門性が求められています。私は大学生の時に実務実習で抗がん剤の支持療法の多様さに興味をもったことから、がん治療における専門性を身に付けたいと考えました。そのため、最先端のがん治療を行っている当院でのレジデント制度を志望しました。当院で採用している抗がん剤やレジメンの数は非常に多く、毎日鑑査や調製で沢山の抗がん剤に触れる機会があります。このような体験はがん専門病院でしか経験できないことだと思います。また、通常の業務だけではなく様々な勉強会や研究発表が行われており、日々新しい知識を得ることができます。大変なことも多いですが、多くの先輩や同期に助けられながら日々を過ごしています。仕事をしながら専門的ながん薬物療法を学ぶことが出来るのがレジデント制度の魅力だと思います。その強みを活かし、これからも精進してがん治療に精通した薬剤師を目指したいと思っています。



国立がん研究センター中央病院
田中 聖二 (千葉県出身)

私は、大学時代の創薬研究や病院実習を通してがん領域に興味をもち、がん領域を専門とした薬剤師になりたいと思ったときに、当院のレジデント制度の存在を知り志望しました。現在、がんといっても多種多様に存在し、その治療方法は多岐に渡り薬剤師には専門的な知識が必要とされています。そのような中、当院のレジデント制度では業務を通して、多くの疾患と抗がん剤治療、最新の抗がん剤など様々な知識について業務を通して得ることができます。また、当院のレジデント制度は10年以上続いており、2年目病棟業務を行う前に開催される病棟前勉強会や、当院で働いている医師による最先端のがん医療についての講義など研修が充実していることも魅力の1つです。当院は、がんについて学びたいと考える人にとって、十分な環境が整っていると思います。興味がある方は1度足を運んでみて下さい



国立がん研究センター中央病院
土屋 侑子 (長野県出身)

がんは、自分の大切な人たちを、簡単に奪い去っていきます。私は大学生の頃、私に薬剤師としての道を選ぶきっかけをくれた祖母を膵臓がんで亡くしました。「どうしてこんなにも医療は進歩しているのに、がんは治せないのだろう。」悲しさと、寂しさと、誰に訴えたら良いかもわからない悔しさが、今の自分をここまで連れてきたのだと思います。皆さんのきっかけは様々だと思いますが、きっかけは何でも良いと思います。「がん専門薬剤師ってカッコいい!」そんな理由でもかまわないと思います。とにかく「学びたい」この気持ちがあれば、当院では学ぶ為の環境は万全に整っています。後はその環境の中で、自分が何を考え、選択し、どう行動するかだと思います。学ぼうと思えばどの病院でも学ぶことはできます。しかし私は、がん医療の最高の環境に身を置いて学びたいと思い、当院の薬剤師レジデントを志望しました。残りのレジデント生活も、向上心と何かに挑戦する勇気、そして優しさを忘れず、目の前の患者さんを「癒し」、未来のがん治療に貢献できるよう日々精進してまいりたいと思います。



国立がん研究センター中央病院
有馬 崇充 (大阪府出身)

私は、大学時代にがんや緩和医療の研究を行ってきたため、これまで培ってきた知識をさらに深めたいと思い当院を志望しました。近年、新たな作用機序をもつ抗がん剤が凄まじい勢いで開発されており、薬剤師ががん薬物治療に関わる場面は増えてきております。そんな中、当院ではどの病院よりもいち早く新しい抗がん剤が導入され、最先端の抗がん剤治療を学ぶことが出来ます。また、当院では手術療法、放射線療法、光線力学的療法などの抗がん剤治療以外の最先端がん治療を学ぶことが出来る当院の医者による講義研修等がプログラムされていることも魅力の1つであると思います。このように医師から講義を行っていただき最先端の抗がん剤治療だけでなく最先端のがん治療を学ぶことができるのは当院のレジデント制度以外ないと思います。もし最先端のがん治療を学びたいと考えているのであれば、ぜひ当院の薬剤師レジデントを志願して下さい。

メッセージ レジデント12期生より



国立がん研究センター東病院

奥中 真白 (大阪府出身)

大学で胃癌の研究を行っていたことが、がん医療に興味を持ったきっかけでした。一日体験でがん患者さんのために取り組む姿に感銘を受け、東病院レジデントを志望しました。レジデントの日々は多忙ですが、1年目から始まる病棟業務などを通じて多くの経験を積むことが出来ます。担当患者が出来る事で責任感も生まれますが、薬剤師が介入したことにより無事に治療を完遂し、退院できた時の喜びも大きいです。患者さんと接する中で生まれるクリニカルクエストを研究に繋げられるのは、病院薬剤師だからこそだと思います。また当院では、平成30年度より連携大学院制度が始まります。私もこの連携大学院制度を利用して、病院薬剤師業務と並行して大学院へ進学します。大学院での研究を通して、将来は臨床での疑問をさらに基礎研究へと橋渡しする事の出来る薬剤師を目指していきたいと考えています。東病院には、幅広い臨床経験や連携大学院制度など、がんについて学び・研究する環境は十分に揃っています。是非一緒に働きませんか。



国立がん研究センター東病院

原田 まなみ (千葉県出身)

私が東病院のレジデントを目指したきっかけは、実務実習で抗がん剤の副作用で困っていた患者さんに介入した経験からでした。もともと、難治がんの新規治療法の確立に向けた研究をおこなっていました。しかし、実臨床でのがん治療を見てみると、治療効果が得られていてもその副作用に苦痛や不安を抱え、治療を継続できない患者さんが多いことに衝撃を受けました。長期にわたるがん患者さんの闘病生活を支えるためには、いかに副作用や苦痛を減らし、長く治療が続けられるかが重要だと感じました。薬剤師として個々の患者さんに合わせたがん治療に伴う副作用の低減をおこなうためには、がん医療の専門的知識や技能、臨床経験が必要であり、東病院はそれらを身につける上で最適な環境だと思います。3年間という短い間ですが、日々熱心にご指導して下さる先輩薬剤師の方々のもと、ひとつでも多くのことを吸収し、がん患者さんの闘病生活を支えられる薬剤師になるよう精進していきたいです。



国立がん研究センター東病院

松山 千容 (大阪府出身)

私は、がん治療に貢献したいという一心で、施設を探していたところ当院の薬剤師レジデント制度を知りました。レジデント1日体験で、レジデント出身の方々や目の前の患者さんに対して熱意を持った方が多くいる環境に感銘を受けたことをとても覚えています。

薬剤師レジデントのメリットの一つとして、3年間で様々な部署を経験できます。現在は病棟薬剤師として働いていますが、日々、多職種からの問い合わせを受け、やりがいを感じると同時にその距離の近さを実感しています。東病院では1年目の6月から診療科別の薬剤管理指導と薬剤部業務のローテーションが始まります。知識も経験も少ない新卒の私にとっては日常業務をこなし、患者さんと関わることに難しさを感じることも多いです。しかし、ここには壁にぶつかった際に道筋を一緒に探してくれる仲間や先輩方がいます。働き始めてもうすぐ1年が経ちますが、この恵まれた環境でがん患者さんに貢献できるようさらに精進したいと思います。



国立がん研究センター東病院
森下 滉己 (群馬県出身)

私は、学生時代の実務実習を通して抗がん剤の副作用に苦しむ外来患者さんに対して薬剤師が介入していない現状を目の当たりにし、大変悔しい思いをしました。現在、抗がん剤治療は患者さんの QOL 向上を図るため外来での治療に移行しつつあります。がん患者さんが外来で治療を受け、安心して帰宅できる環境を提供するためには薬剤師の存在は必要不可欠であると私は考えます。しかし、薬剤師としてどういったサポートをすればがん患者さんが安心して治療を受けていただけるのか答えを見つけ出せないままでした。そんな中、外来化学療法ホットラインや地域医療機関との連携を図る当院に感銘を受け、この素晴らしい環境の中で勉強したいと思い、レジデントを志望しました。3年間という限られた期間ではありますが、がん患者さんのために何ができるのかを常に考えられる薬剤師になれるよう日々研鑽して参りたいと思います。



国立がん研究センター東病院
仁熊 久美 (大阪府出身)

祖母をがんで亡くしたことをきっかけに、薬剤師を志したころからがんで苦しむ人の力になりたいとずっと思っていました。がん医療に力を入れている病院はたくさんありますが、私が東病院を志願した一番の理由は、見学の時にがん医療に対する先生方の情熱を強く感じたからです。ルーチン業務に加え、診療科配属、勉強会、症例報告に臨床研究など、やるべきことがたくさんあり、大変なのは間違いありません。しかし、先生方、先輩方が指導してくださり、そのおかげで患者さんの力になれると感じることができたときの喜びはとても大きいです。薬剤師はもちろん、医師や看護師など他職種との敷居が低く、医療者が一丸となってがん患者さんのために力を尽くしていると感じています。がん患者さんのため、また、がん治療を学ぶ薬剤師のためにここまで情熱を持って取り組んでいる病院は他にないと思います。ぜひ一度見学にいらしてください。



国立がん研究センター東病院
石黒 太造 (東京都出身)

私は、がん医療に対して貢献できる薬剤師を目指すため、レジデントを志望しました。私は一般病院を経て、国立がん研究センター東病院に来ました。以前の病院で血液内科病棟の患者さんが副作用に苦しむ姿を見て、当時は副作用を軽減することをできずに、私自身無力感がありました。化学療法時に起こる副作用に苦しむ患者を減らすことで、少しでも患者さんの QOL 向上に貢献できる薬剤師になりたいと思っています。がん患者さんにとっていてくれてよかったという薬剤師を日々目指しています。

常に向上心を持っている薬剤師部であるので、その中でレジデントとして切磋琢磨し、常に成長していきたいと思っています。

メッセージ がん専門修練薬剤師より

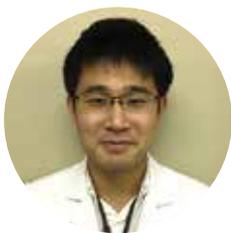


国立がん研究センター中央病院

日比野英幸 (4期がん専門修練薬剤師)

国立がん研究センター中央病院・第2期がん専門修練薬剤師の日比野英幸です。私は治療・臨床研究開発コースに所属しています。現在は、臨床研究に精通している薬剤部の先生方の指導を受けながら、クリニカルクエッションに基づく研究の発案・診療科への研究提案・研究計画書の作成・研究倫理審査委員会への申請など、臨床研究を実現化する上で必須となるスキルを修練しています。今後は、実際に臨床研究を遂行しながら患者検体を集積し、研究データを取りまとめ、学会発表や論文発表につなげていきます。

近年、薬剤師にも高い臨床研究能力が求められますが、臨床業務と並行しながら臨床研究スキルを身に着けるには相当の努力が求められます。しかし、本コースでは薬剤部の先生方から研究に対し支援をいただけるため、一人では学ぶことの難しい「業務と研究の両立」に必要なスキルを、学びながら身に付けていくことが出来ます。



国立がん研究センター東病院

鈴木秀隆 (4期がん専門修練薬剤師)

米国では、ガイドラインや臨床試験データのみならず、薬理・物理化学的特性・患者の代謝能力や遺伝子要因などを詳細に検討した上で、医師へ情報提供する academic detailing が広まっています。私は、臨床分野だけでなく、基礎分野で必要な情報を医師へ情報提供でき、かつ臨床分野・基礎分野の橋渡しができる広い視野を持った薬剤師を目指しています。現在、がん専門修練薬剤師として基礎研究に専念する環境に身を置き邁進する傍ら、大学院社会人博士課程へ入学し、最新の知識を吸収し、がん医療へ少しでも貢献できるよう日々努力しています。私の研究テーマは、「膵癌神経浸潤に由来する悪液質に関する検討」であり、膵癌患者の約75%に起こる悪液質病態の発生機序を解明し、新規治療開発に貢献したいと考えています。私は、この2年間で理想の薬剤師に近づき、将来的に臨床と基礎の橋渡しができる薬剤師の養成に携わりたいと考えています。

メッセージ レジデント修了者より

 国立がん研究センター中央病院勤務
北爪 賀子 中央病院 10 期

私は大学時代から将来はがん医療に携わりたいという思いを強く持っていたため、大学卒業と共に薬剤師レジデントを志望しました。レジデント3年間では尊敬できるがん専門薬剤師の先生方のご指導のもと、多くの患者さんの服薬指導に携らせていただき、臨床経験を多く積むことができました。また、レジデント研修の2大柱である研究についても、診療科の医師のご協力のもと研究に携わることができ、2年次に学会発表をすることができました。レジデント3年間で振り返ると、忙しさに追われ辛く思うときもありましたが、患者さんや医師・看護師などの医療スタッフ、また切磋琢磨しながらも支え合った同期との交流を通し、辛さを忘れてしまうような楽しさ・充実感があつたように思います。がん医療の修得を目指す薬剤師にとって、がんセンターにはすばらしい環境が整っています。熱意のある方、また少しでも興味を持たれた方にも当院での研修をおすすめします。

 国立がん研究センター中央病院勤務
大野 貴之 中央病院 10 期

ここ数年のがん医療はめまぐるしく変化しています。私がレジデントとして入職してから、たった3年の間でも新たな抗がん剤や治療法が確立されました。この急速な進歩はがんの治療に多くの人が関心を持っているためだと思います。日進月歩のがん医療について行くこと、先駆けになることは平坦な道ではありません。日常業務をこなしながら自己研鑽をすることは苦難の道で、時には挫けそうになりました。皆様も同様の思いをし、レジデントになったことを後悔するかもしれません。しかし、私は同じ目標を持つ仲間と励まし合い、よき指導者に恵まれて何事にも代えがたい貴重な経験ができたと思います。冒頭でがん医療の成長速度について述べましたが、3年間のレジデント生活は皆様がそれ以上の速さで大きく成長できるチャンスです。皆様とがん医療の最前線で一緒に働けることを心よりお待ちしております。

 国立がん研究センター東病院勤務
五十嵐 隆志 東病院 9 期

私は薬剤師レジデント9期生として東病院に入職し、レジデント修了後はスタッフとして勤務しています。レジデント3年目に緩和医療科を選択したこともあり、現在は緩和ケアチーム専任薬剤師、緩和ケア病棟担当として勤務させていただいています。東病院には緩和ケア病棟があるのが特徴です。緩和ケア病棟では在宅医療への移行の支援を積極的に行っています。訪問薬局との連携など、病院薬剤師として在宅医療へ関わることができます。

現在、業務をする上で支えになっているのは、レジデントの3年間で学んだ知識と経験です。3年間で臨床業務や研究など多くのことに挑戦させていただきました。そのすべてが無駄で無かったと実感しています。

レジデントは多くのことを経験出来るチャンスが沢山あります。ぜひ東病院のレジデントに挑戦してください。

 東邦大学医療センター佐倉病院勤務
須釜 由香 東病院 9 期

私は大学在学中に祖父をがんで亡くしたことをきっかけに、がん患者さんをサポートできる薬剤師を目指したいと思うようになり、当院のレジデントを志望しました。3年間の研修を終え、当院のレジデント制度の魅力は1年目から病棟業務に従事し患者さんと接することができたり、2年間で全ての診療科を経験できることにより、多くの患者さんに接することで様々な知識・経験を習得できる点だと感じました。また、3年目の1年間は診療科専属の薬剤師として医師と共に働くことができることにより、チーム医療における薬剤師の役割を学ぶこともできました。さらに、がん患者さんをサポートしたいという同じ目標を持った熱意あるレジデントが集うため、切磋琢磨しながら成長し合える点も魅力の1つだと思います。現在は総合病院に勤務しています。今後はがんとがん以外の領域の両方の知識を兼ね揃えた薬剤師を目指したいと考えています。

交通案内



築地キャンパス

- 中央病院
- 研究所
- がん予防・検診研究センター
- がん対策情報センター



〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
TEL 03-3542-2511

- ・都営地下鉄 大江戸線 築地市場駅 A3 番出口から徒歩 1 分
- ・東京メトロ 日比谷線 築地駅 2 番出口から徒歩 5 分
- ・都営地下鉄 浅草線 東銀座駅 6 番出口から徒歩 5 分
- ・東京メトロ 有楽町線 新富町駅 4 番出口から徒歩 10 分



柏キャンパス

- 東病院
- 先端医療開発センター



〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1
TEL 04-7133-1111

- ・つくばエクスプレス 柏の葉キャンパス駅西口から、東武バス（国立がん研究センター経由）江戸川台駅東口行きまたは柏の葉公園循環行き 6 分 国立がん研究センター下車またはタクシー 4 分
- ・JR 常磐線・東京メトロ千代田線・東武野田線 柏駅西口から、東武バス国立がん研究センター行き 30 分またはタクシー 20 分
- ・東武野田線 江戸川台駅東口から、東武バス（国立がん研究センター経由）柏の葉キャンパス駅西口行き 10 分 国立がん研究センター下車またはタクシー 7 分
- ・羽田空港から、東武・京浜急行高速バス柏駅西口行き 1 時間 15 分
- ・常磐自動車道 柏 IC. 千葉方面出口から 国道 16 号線へ 500m 先を右折 5 分

出願に関する照会及び採用願書用紙の請求先

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立研究開発法人 国立がん研究センター 人材育成センター 教育連携室 教育連携係

TEL 03-3542-2511 内線 2203 E-mail: kyoiku-resi@ml.res.ncc.go.jp



国立研究開発法人

国立がん研究センター
National Cancer Center Japan

<http://www.ncc.go.jp/>